

今よみがえる浜松の城～講演会&シンポジウム～

◆講演会「今よみがえる浜松の城」

日時／11月7日（土）13:00～16:00
会場／クリエート浜松
観客数／400人



◆シンポジウム「三方ヶ原合戦を語る」

日時／11月8日（日）10:00～16:30
会場／クリエート浜松
観客数／400人



中井均氏による「戦国時代の遠江の城」では、戦国時代には石垣や天守のない土の城が一般的であったことが語られ、高根城や諏訪原城の発掘調査成果が紹介されました。

小和田哲男静岡大学名誉教授による講演会「三方ヶ原合戦と浜松城」では、武田信玄と徳川家康の今川攻略、武田信玄の遠江侵攻の目的と推移、三方ヶ原の戦いの虚実について語られました。



加藤理文氏による「織田・豊臣時代の遠江の城」では、徳川家康の関東移封に伴って遠江に配置された豊臣系大名によって石垣・天守・礎石建物による城が築かれたことが語られました。浜松城も堀尾吉晴によって大規模改修・増築が行われ、この段階で石垣や天守を持った城になったとのことでした。



午後には中井均氏のコーディネートで、小和田哲男氏、加藤理文氏、漫画「センゴク」の作者である宮下英樹氏をパネラーとしてシンポジウム「三方ヶ原合戦を語る」が行われました。

会場からの質問も受けながら、戦国時代の武将、城、合戦についての様々な話題に触れられました。



三浦正幸氏による「今、よみがえる浜松城」では、安政元年（1854）浜松城絵図をもとに、本丸は空地、二の丸に御殿、天守は天守台石垣のみであったことが紹介されました。また大きな天守台から豊臣期にあっては浜松城天守の規模が大きかったこと、二の丸御殿は江戸時代の譜代大名の典型的な御殿であること等も語られました。

シンポジウム終了後、宮下英樹氏のサイン会を実施しました。なんと、100人全員にイラスト入りのサインを丁寧に書いていらっしゃいました。



両日とも会場は熱心な戦国・城ファン等で満員となり、講演後には会場からは熱心な質問が相次ぐなど盛況でした。

浜松城をどう攻める!?!どう守る!?!～浜松城徹底見学会～

日時／11月7日（土）10:00～11:30

会場／浜松城公園

浜松城徹底見学会には、150名を超える大勢の参加をいただきました。普段見慣れた浜松城ですが、甲冑武者が敵の侵入に備え火縄銃を構える陣形を前に、中井・加藤両先生の「お城」愛にあふれた熱い解説に聞き入ったり、石垣をじっくり観察したりしていくと、また違った発見がありました。お城をあとにする頃には、天守閣を見上げるだけでなく、「いかに守る構成の城か?」「これを攻める側は?」と考える城マニアになってしまう「徹底」見学会でした。



▲八幡台（天守台北側）普段は入れない場所も特別公開！

番外編～載せきれなかった膨大な写真の中から～



一夜城建設中…



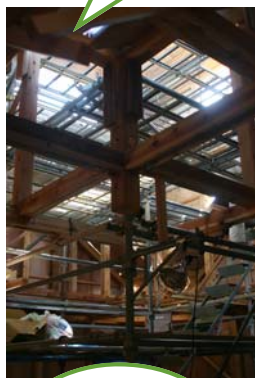
放鷹術を体験！



これから火縄銃演武です！
どきどき…



峠の国盗り綱引き
残念ながら浜松市は負けてしまいました…



一夜城の中はこんな感じ。



宮下先生のサイン会整理券を求めて、朝早くからこんな行列が…



にぎわっています！

チェーンソーアートの信康像が登場

シンポジウム当日は、甲冑が飾られました。今回の城跡フェスで何度も着られた甲冑なんです



サインを丁寧に書く宮下先生。イラストがかっこいい！



物産展もありました。おいしそう…



シンポ終了後、宮下先生を囲んで。お疲れさまでした！



編集後記

「データで見る城跡フェスティバル」スタッフ・ボランティア：629人／演者・講師等：162人／観客：49,540人／関わった団体：50団体以上…総合すると、延べ5万人強の参加者がありました。ありがとうございました！今回の成功が、2年後の山城サミットにつながるといいですね。期待できそうです！